慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	計画化と社会科学（国土計画論への一省察）
Sub Title	
Author	奥井, 復太郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1940
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.34, No.8 (1940. 8) ,p.1067(49)- 1103(85)
JaLC DOI	10.14991/001.19400801-0049
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19400801-0049

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

計畫化と社會科學

（國土計畫論への一省察）

奥井復太郎

はしがき

慶應出版社刊行の「現代經濟新書」中に「國土計畫」の一項を分擔する事となつて先般同新書第一回配本として出版された同書中にもことはつて置いた樣に、國土計畫は其の理論又は科學的性質が先づ究明されるに先立つて實際の必要が之れを喚起したものであるからして、其の理論的檢討に就いては私の著作中は勿論の事、社會一般にも未だ充分なるものが無いと云つて差支ない情況である。其れ故、他日を期して充分な檢討を行ひ度いと思つてゐたが未だ其の時機に到らない。唯、計畫論や實際計畫綱領なぞを幾つか見聞してゐる内に、玆に一つの傾向のある事を感知する事が出來た、そこで本稿を執筆する事となつたのであるが、問題は決して然かく簡單ではない。根本的命題は恐らく學問論であり科學論の領域に屬す可きものであらう。之れは淺學の私が能く成し得る所では無い。從つて玆では幾つかの文獻や資料を通じて私が感得し得たと思はれる所の傾向、即ち計畫化（プランニング）の流行と共に盛んに主張される樣になつた學問上、殊に社會科學上の一傾向に就いて語るに止めたいのである。社會科學上の一傾向とは、諸社會科學の綜合化に外ならない。或ひは新社會科學（ニュー・ソシアル・サイエンス）と呼ぶかも知れない、又は計畫哲學（プランニング・フィロソフィー）と呼ばれるかも知れない。或る者は大膽に計畫學と呼ぶであらう、或ひは又社會經濟學（ソシアル・エコノミクス）と云ひ或ひは

社會技術學（ソシアル・テクノロジー）と云ふかも知れない。其の名稱の如何を問はず、諸社會科學或ひは自然科學の或る部門をも含めての全科學大系に重點を置かうとする傾向が、此の計畫化運動に附隨してゐる事丈けは頗る確かである。

本稿では、此の意味の傾向と更に社會科學研究上の諸機關又は施設に於いて之れに對應すべき用意が、如何にあらねばならぬかと云ふ事等に就いて知り得た所を語ると共に、問題の性質上、普ねく各方面の諸賢の御敎示を得たいと思つてゐる次第である。

一

既に前述した小著に於いても述べた樣に、國土計畫とは National Planning に該當する邦語であるが、此の原語は都市計畫の領域に發生したものとして國土計畫の語義に通ずる性質のものである。故に單にナシヨナル・プランニングと云へば全國的新計畫を意味すべきものと云ふのが至當であらう。National Planning の名稱の下に經濟計畫が意味せらるゝ事必ずしも少くない。この事は自由經濟への修正體系として計畫經濟が云々せられる所から、經濟學的視角から云へば、ナシヨナル・プランニングは當然一國的計畫經濟を意味する事になる。E・レーデラアは故に社會科學百科辭典（Encyclopaedia of the Social Sciences）中に "National Economic Planning" を書いてゐる。

ナシヨナル・プランニングが國土計畫である爲めには、之れが都市計畫又は其の發展である地方計畫（Regional Planning）の畑に成長した事を知つて置く必要がある。玆では常に計畫の對象は土地及び其の關係である。都市計畫に於いては市街地が、地方計畫に於いては中央都市と其の近接地方が、鄕村計畫（Country Planning）に於いては農村地域が、計畫の對象となつてゐる。從つてナシヨナル・プランニングに於いては國土が對象となるのである。故に或る論者は之れを土地計畫又は領域計畫とも呼んでゐる。（Land Planning 又は Territorial Planning）此の、所謂プランニングなるもの〻土地的性格、つまり、ナショナル・プランニングと呼んだ場合、直ちに之れが國土計畫と考へられる所以に就いては、L・マムフォードの言葉が之れに好く暗示してゐるであらう。

A good plan is, in essence, an attempt to put such an integration in a graphic or dramatic form. As an instrument of thought, the plan has developed mainly out of the work of the architect, the town planner, the engineer, and the geographer. In architecture, for example, the plan serves as a means of focussing detailed knowledge, so that each trade, each craft, will find its own work duly laid out in the common task. It is not an automatic substitute for individual knowledge, individual skill, individual decisions and efforts: it is rather a means of clarifying, by the use of graphic abstractions, the work of the individual elements; and it is a dramatic means of evoking the will to work harmoniously for the sake of a common result. (Lewis Mumford — his Foreword to Planned Society: Yesterday, Today, Tomorrow. edited by Findlay Mackenzie. New York. 1937)

ナシヨナル・プランニングなるものが如何に國土計畫的であるかに就いては別の機會に於いて述べておいた（拙著『國土計畫論』第一章第二節 國土計畫論が盛んになつて來た理由）從つて大きい意味のナシヨナル・プランニングの裡に經濟計畫等を含め、產業計畫なぞを共に論ずる流派に對して、所謂國土計畫論者は何處までも計畫による國土

の設計を以つて終始しようとする。例へば Cyrus Kerr は全國計畫に關する其の著書に於いて全國的計畫に於ける最も優力な因子は輸送交通にありと見てゐる。即ち是等のものが、他の何ものよりも有力に國内に於ける公益事業や人口の分布、社會生活の物的構造を決定するのである。（A Nation Plan: A Basis for coordinated Physical Development of the United States of America, with a Suggestion for a World Plan.）英國の都市計畫家も道路・交通・鐵道・水路・電氣・動力と云ふ樣な連絡・配給（ディストリヴューティヴ）的な機能及び其の組織を重く見てゐる。實際、一本の道路も社會的には決して無意味なものでは無い。一國内の廣い意味で云ふ交通の體系が明瞭に示されゝば、それで一國内の地域的編成が如何にあるかと云ふ事が諒解出來る筈である。内鮮連絡に海底隧道による連絡が考へられる事、日泰及び南洋航空路の開設が比較的近頃に行はれた事等はいづれも日本經濟と東亜（南洋をも含めて）經濟との地域的連絡及び編成を示す一證左である。

斯くの如くして一國の土地利用の編成を意圖的に處理して行かうとするのが國土計畫である。しかし此の國土計畫が社會生活のあらゆる方面に於ける計畫化の一部分である事は云ふを俟たぬ。綜合的計畫體系として吾々は社會計畫（Social Planning）又は計畫化社會（Planned Society）と云ふ言葉を見出す事が出來る。先きにマムフードの序言を引用したF・マッケンジー編纂の Planned Society の如き、George Soule の A Planned Society (1932) の如き、或ひは C. C. North の Social Problems and Social Planning (1932) の如き、いづれも此の例である。此の用例に從へば社會生活の全般が一定の意向に基いて計畫化される譯であるが、計畫は其の本質上、一箇の手段體系であるからして計畫活動の本源が主として經濟的方面に置かれるのは當然である。例へば前掲のマッケンジー編の「計畫化社會」にしても、三十五人の經濟學者、社會學者及び政治家（スティツマン）を網羅してをり、一應は政治・經濟・社會の三部門に亘つてゐるに拘らず、經濟學的な側面に重心が寄つてゐると批評されてゐる。此の書は計畫（プランニング）の過去・現在、將來に就いて上述の社會科學三部門、今日主として技術的方面で社會計畫化の任を擔當せしめられてゐる三部門に亘つて論攻を求め、(一)原始古代、中世の諸社會に於ける經濟統制（エコノミック・コントロール）、(二)經濟統制と國民主義、(三)經濟活動の特殊領域に於ける統制と計畫化、(四)全經濟活動の統制と計畫化に就いて各家の檢討を蒐めてゐる。が經濟的方面が特に重く見られ、政治學及び社會學の役割は主として explication でなくて implication として取扱はれてゐるに過ぎない（Earl S. Johnson. in the "Americal Journal of Sociology". vol. 43, no. 4）G. Soule の "A Planned Society" は經濟計畫（economic planning）が社會計畫の可能にして欲ましき唯一の形式であると思はれてゐる點に就いて表題が誤解を招きやすいと指摘されてゐる（C. C. North, in the "American Journal of Sociology" vol. 38 no. 5）

> Recent discussions of a planned society have been conducted as if the problems involved in the question of planning were exclusively, or predominantly, of economic nature. This has given rise to two impressions which have obscured the larger issues which the question of a planned society poses. The first is that the whole subject is one concerning which only the specialist in economic affairs has the authority and competence to speak. The second is the feeling, a natural result of the depression atomsphere in which the various plans were projected, that planing is an emergency measure designed to restore a state of economic equilibrium in which the necessity for planning with

its elaborate system of controls would disappear. (Sidney Hook: The Philosophical Implications of Economic Planning. In "Planned Society" ch. xix)

斯樣に計畫それ自體が「手段」概念である故に人間生活に於ける最大の「手段」概念たる經濟又は經濟的なるものに之れが最も能く接近するのは當然であるが、他の方面にも計畫が普く及んでゐる事は云ふ迄も無い。勞働や休養、修養、娯樂に於いても今日では計畫と云ふ事が考へられる。生産が自由であつた樣に消費も同樣に、否、此の方は當然生産が拘束されても消費は個人的に自由的でなければならぬ樣に考へられてゐた。物給賃銀の廢止や寄宿制の解放はいづれも消費自由の見地から叫ばれた。所が近來に於いては、消費も統制をされなければならぬ情況に立ち到つた。それは單に物資の不足とか國民生活の窮迫とか云ふ理由にのみよるものでない。勿論消資統制に乘り出す社會情勢は他方に物資不足生活窮迫をも招來するが如き情勢ではあらうが、消費統制は更に直接的な目的を持つてゐる。つまり國民としての健全なる消費、所謂人的資源の保全及び向上に資する樣な消費でなければならぬと云ふ意味での消費統制又は指導が茲では問題になるのである。從つて休養保養娯樂に就いても、放任化した所謂、商業化された娯樂機關によらしめずに積極的な指導を計畫的に行はうとする。

「産業的進歩の恩惠を萬人に普ねからしめる爲め、現代社會では計畫化が必要であつても、經濟上の計畫化丈けで、それ自體から、又はそれ自體によつて、一理想社會（ユートピア）を生み出す事は不可能である。……計畫化がより豊かな生活に對して必要なる基礎であるとしても、社會を研究する者は、經濟の計畫化が文化生活、藝術、教育、娯樂（リクリエイション）及び宗教等に及ぼす影響、つまり各個人が創作し、知識し、自ら厚生（リニュー）し更に彼の基本的な整統された信仰に到達するといふ、彼の生活の諸分野に與へる影響の鑑定を是非行はねばならぬ。明かに社會計畫化は經濟專門家の仕事のみに限られる可きでない。經濟計畫化と手を携へて文化生活を進捗する理想は何であるか決定する爲めの合理的な探求が進められねばならぬ。經濟計畫化は文化計畫化の序奏に過ぎないと云つて差支ないかも知れぬ」（F. Mackenzie. 前掲書第十六章 E. C. Lnideman: Economic Planning and the Culture Complex への緒言）リンドマンは云ふ「自分の定立（センス）は經濟計畫化をその文化的背景の裡に置いて考察せよと云ふ事を訴へたいのである。成長しつゝある人格の必要を滿足させる樣な計畫化された社會は技師や經濟學者丈けで建設もされなければ經營もされるものでは無い。彼等は他の專門家からの援助を必要とする。經驗の適切なる情感的組織は單に能率的な文明（シビリゼイション）丈けの裡に見出されない、かゝる文明とそれに相應する文化（カルチュア）との間の協和的な關係の裡に存するものである。」（前掲書六二七頁）

二

茲で何事によらず計畫化なるものは頗る多方面的であり、其の關係の及ぶ範圍が頗る廣大である事となつた。私が本稿で計畫と社會科學なる題目の下に取扱はんとする論題の一つは寔に此の點である。計畫の理論體系を云々するならば、假りにも計畫學と云ふ樣な事を云々するならば、それは如何なる性質のものであらうかと云ふ事を先づ考へねばならぬのである。既に計畫の本質及び其の合理性に就いて緒言的に述べた所丈けで計畫の理論的體系は一つの綜合的理論體系であると云ふ事實は明瞭に親へてゐる。今此の問題を少しく追求してみよう。

其の爲めには最も專門的特殊的であると思はれる樣な分野に於ける計畫論を持つて來る事が最も好都合である。

本稿に「國土計畫への一省察」と副題したのも、國土計畫、つまりは都市計畫の如き特殊な計畫、主として土木建築的分野に屬するプランニングを主題として、其の性質を明かにし乍ら、其の計畫が如何に多面性を持つてゐるかと云ふ事を示すに都合がいゝと思つたからである。元來、私の都市計畫の如き、決して土木建築の如き工學的領域に止まるものでない事を可なり早くから指摘して來てゐた。或る場合には都市計畫の精神的意義を强調し、他の場合には道路の社會性を論じ、又或る場合には單位集團社會の地域性を論じ、更に其の設計にまで言及した事もある。是等の企圖は　或ひは專門的都市計畫領域への異端的進出であつたかも知れない。併かし「今假りに例を建築にとつて見ると、何人も自分の家を建てるのに、住む本人の生活實體を考へないで家を建てる者はなからう。即ち工學的技術は其の內に住む人間の、或ひは社會の生活實體及び生活思想乃至は理想を表現したものになつて來る。」痴愚の人間は徒らに虛飾や虛榮で家を設計するかも知れぬ。併かし健全な生活者は、家の設計を改良し或ひは完備する事によつて自分達の生活福祉の向上する樣に心掛けるであらう。「計畫化」の眞の意義は此の後者の點、即ち計畫化した結果、よりよき生活が行へる樣になると云ふ點に目標を置かねばならぬ。從つて工學的技術的に敎示せらるゝ所は非常に大であるが、反面、人間生活の諸方面が、此の問題の內には取り入れられて來なければならぬ。つまり「建築、一道路、一廣場の如き問題、表面的には最も技術的又は工學的なものも其の反面には非常に複雜な社會關係を含んでゐる事を示す事によつて、最も好く、計畫と社會科學との關係を明かにする事が出來るであらう。

都市計畫、地方計畫及び國土計畫に於いて今も述べた樣に社會科學の援助が要請せられる樣になつたのは左程古い事ではないが、今日では旣に常識化した事實である。都市・地方計畫の事は暫く措くとして、國土計畫に就いて見ると、其の組織にはいづれも關係政府官吏の外に「學識經驗ある者」を以つて委員會を組織せしめる樣になつてゐる。實際政治の問題として國土計畫を取り擧げるか否かが旣に問題であると同時に、之れを採用した場合、其の機構を如何にすべきかは勿論、なほ一層重大な問題とならう。今玆に膳立之助と稱せられる人の「國土計畫設定に對する私見」によつて此の問題を一瞥してみよう（「科學主義工業」昭和十四年十月號）

「國土計畫の主官廳は內閣總理大臣とすることが適當であらう。けだし國土計畫は產業、經濟、交通、文化等百般にわたる國土の企畫であつて各省所管事務の運營は今後この國土計畫に基いて割出されなければならないが故に、これを特定の一省の所管とすることは適當でないからである。……かくて總理大臣の下に國土計畫のために必要な部局――たとへば國土計畫院又は國土計畫局――をおいて總理大臣を輔佐せしめる。もつともこの機關は企畫院との關係を考慮して、企畫院內にこれを設置するも適當と考へる。」

之れによつて國土計畫なるものゝ綜合性統合性が政治機構的に說明されてゐる。そして更に

「國土計畫の諮問機關として國土計畫委員會を設置し、關係各廳の充實及び民間の學識經驗ある者を以つて委員に充てる。」

此の委員會は、國土計畫部局が國土計畫設定に必要なる基礎調査を行ひ其の結果に基いて作成した國土計畫要綱

を審議するもので、此の委員會の議を經て要綱は閣議に提出され、政府の決定計畫となるのである。所で學識及び經驗の必要なるは要綱の審議ばかりでなく、その基礎調査の施行に當つて既に必要である事は多くの人々の既に認めてゐる所である。綜合的な計畫を立案する場合、基礎調査も亦、綜合的體系の下に行はれなければならぬのは當然である。個々斷片的な、相互に脈絡のない調査が、多大の費用努力を犠牲にしたにも拘らず無意味に終りやすい理は其處に在る。綜合的機關としての國土計畫部局が關係の諸官省に所管事項についての調査を行はしめる場合、之れが從來みられた樣な一肢一部的であつたとしたらば、それこそ重大な自己矛盾に陷ると云はざるを得ない。

扨、學識・經驗の必要は了解し得るが其の學識經驗が如何なるものであるかは之れでは明瞭でない。つまり凡べての委員會が「學識・經驗のある者」を以つて構成されてゐると云ふ、其の一般の型を示したに止まつてゐる。然らば國土計畫に於いて要請せらる可き學識は何であらうか。私の小著に於いては、經濟學、法律學、政治學、社會學、地理學、醫學、或ひは農政學、經營學、交通學、人口學、國防・軍政學、更に建築・土木工學等を必要な科學として列擧した。恐らく大きな錯誤はあるまいと信ずる。

此の問題について獨逸の國土計畫論の或る者は次の樣に觀察してゐる。即ち獨逸國中央計畫は五つの重要な事項を持つ。（一）一つの指導精神、（二）學術並びに理論、（三）既存のもの並びに其の發展史を理解する事、（四）指導方針、（五）實行とが之れであつていづれも學術と技術と、そして充分なる政治技能と卓拔なる想像力とを必要としてゐる。

「國中央計畫は國民の社會的、經濟的及政治的の多角度の要素から出發す可きであるから第一に人間、土地、地域並に其の現狀が經濟及勞働から結果する其の前提を明瞭にしておかねばならぬ（國勢調査）。斯かる現狀調査が先行せねばならぬが、一例として擧げれば、人口政策に就いて見れば唯に現在の狀態即ち人口及家族の數が規準になるばかりでなく其の上に動的の狀態に於て認識し得可き發展の方向例へば年齡構成及出生率より結果する如き發展方向、又家族の爲、就中、より良好なる、より安全なる生存條件を造る事により、此の動的狀態の程度を昂める可能性も規準となる。其上に尙人種の知識の要求や人口の素質並現在の權利關係、更に職業及其の妥當なる比例や秩序等の自然的構成の研究も必要となる。土地及氣象、動物界、植物界に關聯せる其の土地の力並に土地の中に存する發展能力は主要なる活動の餘地を造る、總べての技術的發展は其の餘地の中に其の基礎をおくのである。最後に經濟政策的統計によつて之等の前提からドイツの人間及ドイツ國民が今まで彼の才能と經濟的發展を基礎として何をしたかと云ふ事に就いて了解し得ねばならぬ、換言すれば新しく得らるべき方針によつて其の基礎の上に新建設をする爲に現在我々が如何なる狀況にあるかを了解せねばならぬ。」

「國中央計畫は今や現狀及びそれから得たるもの、認識から新建設に對する指導方針を導き出さねばならぬ。それには計畫學によつて得らる可き活用し得る法則や基本問題を理解する事が先決問題である。次で勞働及經濟――即ち人間の働きの大なる範圍――に對し食糧問題の確立、原料の獲得、物資の生産、分配及消費等の要求が組織化する。此の際周到なる消費指導の新しい分野が自然的狀況によつて其限度ある可き處に所謂力の自由遊技の代りに代つて來る事が特に大切である。」

斯くの如くして其の外に勞働力の計畫的調整、殊に郡部勞働力の調整、農民と職工との相互健全なる交換關係を目標とする市場構成の問題、更に交通、行政の問題最後に全國土の編成に當つて國土保護防衛の問題等がいづれも科學的に考慮されねばならぬのである。

ミシシッピー流域の開發計畫、殊にテネッシー谿谷開發計畫は米國の南部政策の一つであつて所謂地方主義（リージョナリズム）及び地方計畫（ジョナルプランニング）の課題であると共に他方には國土計畫體系中に含めらるゝ性質のものである。（Planning for City, State, Region and Nation. 1936. M. Maverick: A Permament National Resources Board. p. 153）其の計畫の具體的研究は別の機會に讓るとして、此の開發計畫、即ち河水統制、ダム築造、水力發電事業等の開發計畫に對して何れ程、社會科學的な協力が要請せらるゝか。先づ此の問題に就いて尋ねてみよう。

テネッシー谿谷開發事業（The Tennessee Valley Authority Program）に如何なる社會科學者が關係してゐるかと云へば、問題の性質や事業進捗の段階に應じて決して一樣では無い。

T・V・A事業の目的は此の地域の人民の經濟・社會的福祉を增進するに在る。元來テネッシー河流域地方は非凡の發展可能性を持つたものと認められてゐたが、同地方の經濟は明らかに不充分な狀態であつた。廢鑛、伐盡された森林、浸蝕された土壤、行詰つた住民等、いづれから見ても自然資源の利用法として賢明ならざるものを立證する丈けである。地方計畫に於けるナシ・ナル・エキスペリメントの地區として此の流域を選んだ事は、斯かる狀態の存在に對して國家が氣がついた爲めである。故に開發計畫としては、航行、氾濫防止、水力發電事業等であり、更に肥料の改良・改善、限界地面の適當なる利用、植林造林の方法等が企圖されてゐる。

元來かゝる企畫の持つ社會的關係は頗る大であつて、單なる目標の記述やその方法の概說を以つて、此の大計畫に生命を與へる事が出來ない。「若し此の企圖を成功させると云ふならば、此の企圖に關係のある人々の協力を先づ求めねばならぬと共に、此の要綱に就いて全體的に、又は其の各面の凡てに亘つて經濟學的に研究され分析されねばならぬ。聯邦（中央）政府の企圖と聯邦（中央）機關の權力とが、此の地方で既に活動してゐる州及び地方政府に對する關係を考慮しなければならぬ。是等の問題は、其の解決に當つて社會科學者が其の學問の知識を提供し得る所であつて、此の企圖から先ずる諸問題の解決を見出す爲めに、經濟學者、社會學者、教育學者、政治學者が、工學技師、地質學者、農學者、林學者と進んで協力せねばならぬのである。是等の主要なる問題の多くの解決を滿足のものたらしめる事は、精密科學なり社會科學なり、それ一つ丈けの內に見出されないで兩者の綜合（シンセシス）から生ぜねばならぬ。」

先づ第一に、企圖に先立つて必要なる知識を充分に體系的に蒐集しなければならぬ。此の蒐集は調査要綱（リサーチ）を爲すもので、一方には事實的背景を提示する爲めの大規模的企圖から成ると共に他方には幾分直接的な行動に必要な早急の情報を求める應用型の調査から成る。前者は三部に分れ、第一の研究部門は其の地方に於ける利用し得可き資源—人口、制度組織、生活樣式及び物的資源並びに其の利用方式等に關係するもので、如何なる開發計畫と雖も、問題の地方の物的人的資源に適合し得る爲めには、此の正確な知識に依らねばならぬ事多言を俟たぬ。第二の研究部門は是等の資源が利用せらる可き、手段を中心とするもので、開發に際しては複雜な遂行上の工夫を用ひねばならぬ。是等の工夫や道具のあるものは、中央、州、地方政府機關の利用出來るものであるが、他のものには、商業會議所、同業組合等の半公共的團體によつて利用される技術がある。地方開發の發展によく均衡あらしめる爲めには、

此の手段の體系に於いて、中央、地方政府、半官半民機關並びに私的創意等を充分に連絡よく利用が出來る樣立案する必要がある。

第三の研究部門は開發事業の目標に關する研究で、抽象的に云へば、地方住民の經濟・社會福祉の增進であらうが、此の理想を如何なる具體的目標の內に生かさうとするのか。此の場合に於ける具體的目標としては、經濟的、或ひは產業的均衡の保持と云ふ事にある。即ち農工業の適切なる均衡、兩生產物の公正なる分配を計る事に在る。其の爲めに現在の生活標準に就いて何處に欠陷があるかを了知する爲めに、判然たる事を知る必要がある。斯くして住民の持つ不足、必要、是等を充足させる手段等に就いて尨大にして正確な知識が必要である。調査は此の爲めに最も根本的な手續である。

元來、此の種の地方開發計畫は別の機會にも述べた樣に一つの分散化の方向に於いて企畫されてゐる所に現代的意義がある。從つてテネッシー谿谷にしろミシシッピー流域にしろ、其の開發に就いては農業振興もさる事ながら過度の工業集中地方を分散させて是等地方の工業化が多分に奬勵されてゐる。農工業の新しき結合、都鄙文化の接近は、斯くの如くして、かゝる地方計畫、惹いては國土計畫の具體的要請となつてゐる。（"Social Forces" 1935, December. W. R. Tylor: Socio-economic Aspects of Territorial Planning with Special Reference to the Mississi. pi Valley Plan. 第二次近衞內閣基本國策の要綱—八月一日發表—に於ける「國土開發計畫の確立」の一項參照）

事業がその目標に進むに從つて、採用された方法及び結果に就いて絕えず是等をチェックし鑑定する必要がある。當地方住民や、國全體に及ぼす此の全事業の影響や、其の各局面の影響を決定する事は經濟學者や社會學者が援助せねばならぬ點で、事業の遣方、方法及び影響の如何と云ふ事を鑑定する仕事の大部分は、社會科學者の專門能力の裡に置かれる。

T・V・A內の社會・經濟部門は旣に斯くの如き基本調査を盛んに行つてゐるが、其の主な企圖の中、「つは南部地方の工業發展に關する經濟學研究であつた。或種の選ばれた、例へば窯業の如き、工業が地方經濟と全國經濟との關係に於いて研究されてゐる。殊に南部の諸組織制度中、全國的關心の持たれるのは小作農問題である。「元來、南部米國の小作制度は新しく自由になつた大勢の黑人と戰爭で疲弊した地主とを結びつけるに役立つた。しかるに此の制度は益々發達して行つて、今日では白人の小作人が黑人のそれよりも急速な割合で增加して來てゐる。T・V・Aは、或る地區では土地の肥沃度を恢復せんとする努力中、其等の農場が小作人によつて經營されてゐると云ふ事實に直面しなければならなかつた事を認めてゐる。此の理由で小作制度、地主小作人關係が此の地方事業の中で大きく浮び上つて來てゐる。小作制度をあらゆる細部に亘つて檢討する事が肝要となつた。」

同じく大規模企畫の問題としてはダム構築、貯水池造營による住民移動、殊に新定住地設定の問題がある。「住民移住の起る以前に、移住しなければならぬ家族について、その所得、農業活動、社會狀態等につき正確な知識を得ねばならぬ。此の情報はT・V・Aの他の部門及び住民移住に協力する外部の組織によつて利用されるが、蒐集された資料は、各特殊地區に於ける社會・經濟的狀態の姿態を求め得る樣に分析されねばならぬ。……個々の研究の綜合

によつて所得、其の源泉及び額、商業中心地及び配給機構・農場及び家族生活の經費・家族組織、其の地方の移入移出、其の他此の事業に對して密接に關係のある、あらゆる種類の問題に關して回答が得られる事となる。此の種の大規模調査及び計畫の要綱が、社會・經濟部門の重大な活動の内に置かれてゐる。

此の部門の仕事の最も基本的部分は、他の部門と協力して事業及び工事活動に必要な調査を行ふ事で、ダムの建設は、社會科學者が解決に援助する事の出來る澤山の問題を惹起す。一つのダム建設の各段階に應じて生ずる社會・經濟問題の型は次の樣に分れる。(一)ダム建設の可能性に關して決定の下される前に技師も社會科學者も多くの研究を行はねばならぬ。前者は構築に對する堅牢な物的基礎を判つきり見出さうとするし、社會科學者は此の計畫の社會・經濟的基底の堅實なるを希望する。技師は自分の造つたものが自然力に抵抗する事の出來るのを願ひ、社會科學者は計畫の目標になつた住民に、それが社會的に有用である事を希ふ。「之れを確める爲めに、經濟學者は築造計畫によつて生産外に取り除かれる可き其の地方の社會價値を計畫自體の社會的利益に對して秤量せねばならぬ。將來に對する現在の秤量も何とか行はれねばならぬ。此の計畫は昔からの土地集團社會の壞滅に値するや否や。貯水池の爲めに要せらるゝ土地が生産的農場から除かれる事は是認し得可きや。他の言葉を以て云へば、豫測的な利益が此の企業の貨幣的社會的費用を償ふや否や。若し否とするならば、單なる技術的完成で此の計畫を是認する事は出來ない。斯くの如きが企圖が承認され敷地が決定される以前に社會科學者の回答せねばならぬ問題である。」

(二)建設の大本が決定すると次の問題は建設工事の問題となり、企畫地の一定距離内に於ける利用し得可き勞働供給量が問題となる。人口構成、技能情況、人種關係等がそれに連れて問題となる。工事勞働者を附近地に求む可きか或ひは他所より輸入す可きかの問題は、決して簡單な問題ではない。(三)雇傭した工事勞働者の宿泊所の問題で、換言すれば勞働者が何處に住むかの問題がある。作業場への距離、宿泊所及び其の土地の性質等が玆で考察されねばならぬ。(四)勞働者訓練の必要及び計畫があるならば、雇傭せらる可き人間に關して徹底的な理解が必要である。建設工事に必要なる技能の性質を決定し、如何なる型の訓練が人及び土地にとつて最も必要なりやを定める。此の點で特に訓練を別に行ふか、それ共既存の社會と結んで其れに訓練を行はしめるか、換言すれば「現在の家庭や其の地方の習慣と良く合體した計畫の方が人口をその環境から引き移して行ふ所のものよりも、遙かに優れてはゐないだらうか」と云ふ問題に答へる必要がある。此の事は、勞働訓練ばかりでなく前述の「其の地方の習慣と良く合體した計畫」と云ふ點に考慮の重點が置かれる可きであらう。(五)建設宿泊地の規模や型が決ると次の問題は、是等勞働者が必要とする教育組織の問題がある。此の場合にも既存の組織を何等かの方法で利用するか又は獨立に特殊な組織を設けるかを決定せねばならぬ。(六)宿泊地が出來上ると、商業施設、娯樂施設其の他の經濟・社會上の必要は、何を豫め考へておかねばならぬか、を問題とする。(七)建設工事の社會が出來上ると此の集團社會が最も能率的である爲めに、社會組織の型を定める必要がある。つまり其の社會の政治、行政組織の問題である。工事部落であつても、良き政治に對する努力に協力參加するの機會は無視されてはならぬのである。(八)既存の地方團體との關係も複雜である。ダム構築その他の事業は現在の地方政府に可なり重い負擔をかける。保健施設、教育施設、

道路使用、新道開設等について是等地方團體は、工事の盛大になるに連れて過剩の負擔を課せられる事になる。從つて工事當局と地元團體との間に協調の實を擧げる樣に研究する必要がある。（九）ダム建設と共に、水底に葬られ去る土地と其の住民に就いて考へる必要がある。其の住民の年齡構成、殊に新しい環境に於いて更新した活潑な生活を期待するに充分な若さを持つた人口の割合、彼等が新住地に就いて如何なる希望を持つか、例へば舊鄕土と似た環境を選ぶか、或ひは新しい土地でも舊來からの生活樣式に固執するか、或ひは密集村落形式を好むか、全農生活を採るか、或ひは半農半工の生活を採用するか。或ひは是等の變動に適合する手段に乏しき者が少くないので、是等住民の經濟狀態も特殊な問題を惹起して來る。「事業の此の部分の成否は、將來になつて決する事で、是等の人々が文化的經濟的損失なしに新生活に巧く合體し得た程度如何と云ふ事が定められる時に決まるのである。」（十）貯水池敷地を入手し住民を追ひ立てた所で問題になるのは行政學、經濟學の研究者の特に注意すべき點で、中央政府が購入した爲めに土地財產が地方稅の對象から逸脫すると云ふ點である。「地方政府の地域の大部分が購入されて了つた後の其の財政狀態はどうなるか。如何なる財源が殘されてゐるか。…特殊の地方政府單位の將來はどうなるか。當然、地方政府も何等かの修正による適合を受けねばならぬであらう。（十一）扨、工事勞働者解放後の收容問題である。所謂、復員計畫であるが、次の項と併せて、決して等閑に附し難い。（十二）最後に工事が完了し、關係者が退去した時に最も重要な變動と適合とが生ずる。「附近の都會は一時的たに增加し人口に調子を合せて來たので今や收縮の時期に直面する。永く開かれてゐた小賣店は去つて行く、又は仕事の無くなつた顧客の償ひに他の顧客を求めねばならぬ。他の制度や組織も人口移動の結果として新しく適合せねばならぬ。」此の場合工事終了後の變動した狀態に對しても、地方住民の生活に對する此の計畫の合成はちやんと維持されてゐなければならぬ。若し之れが出來ないと此の事業は其の目的を達しない事になる。何故かと云へば最大の利益を結果させ樣とするならば、物的變化に續いて社會的調整が行はれねばならぬから。

以上がT・V・Aの大規模調査及び計畫事業に關聯して參與す可き社會科學者の地位である。つまり茲では社會科學者が社會技師(Social Engineer)として建設工事の主動力と並んで仕事をしてゐるのである。此の仕事は社會科學者に二つの特殊な型、つまり技師型を要求する事となる。之れが次の問題になる要點である。（此の項：Social Forces" 1936, October.—T. Levron Howard: The Social Scientist in the Tennessee Valley Authority Program による。）

四

斯くの如き國土計畫的事業に社會科學の綜合的協力が要請される結果、玆に所謂、應用社會科學の問題とも云ふ可きものが生じて來る。

『T・V・Aに働く社會科學者は先づ自己の領域に就いて健全なる知識を有す可きであるが、敢て非實際的であつたり又は、理論にのみ專念し過ぎる可きでない。彼は孤立の內に働く事は出來ない、蓋し彼の仕事こそ大學、州・地方行政機關、計畫委員會其の他T・V・Aの直面する諸問題の解決に貢獻する事の出來る他の組織と積極的な協働を確

保するに在るからである。彼は屢ゝ毫も遲滯なく成就するの必要に逢著しなければならぬが、然かも其の檢討に於ける精確と徹底とを犧牲にしてはならぬ。

『是等の條件を充す事の出來る社會問題の實際的研究者は、此の事業の諸問題の內に、自己の識見を試みる機會を見出すであらう。彼が行ふ仕事は彼の訓練によつて得たあらゆる知識と調査技術の利用を要求するであらう。其の代り、彼は一般の社會科學者にも立ち優つて彼の調査による諸發見の非常に多くの部分が行動に移されるのを見ると云ふ償を受けるであらう。』（T. Levron Howard: The Social Scientist in the Tennessee Valley Authority Program）

斯くの如き事情からして、單に特定の社會科學の專攻研究者である事以外に、複雜多方面な事業や計畫に處して正鵠を誤たざる丈けの科學的な素養が計畫當事者には必要になつて來る。前揭のT・V・Aの事業が示す樣に、又恐らく凡べての先進諸國に於いても見らるゝ樣に所謂プランナアなるものゝ持つ社會的意義の重大化と共に其の需要に對して應ずる組織が當然考へられねばならなくなつて來た。『社會計畫化の精神が擡頭して來て優勢となり、又あらゆる水準に於ける計畫化が近來增大的な注視を得つゝある所から見て、米國の主要大學の一つが、各種の計畫機關から之れに課せられた需要に對して如何なる手段をとつたかと云ふ事は一般的にも正に興味のある問題であらう。』茲に米國の一大學と云ふのはイリノイ大學であつて同大學が如何に近來流行のプランニングに對して學問的組織に適切な手段を講じたかを簡略に述べてみよう。（The University and Social Planning.——Bexford Newcomb: Beginnings at the University of Illinois. "Social Forces," 1936, October）

勿論茲で云ふ計畫化（プランニング）とは前項で述べた樣に主として都市計畫的な性質のものである事は一應注意しておく必要がある。イリノイ大學では風土建築學部（Department of Landscape Architecture）で年來、都市計畫に關する課程が授けられ、一九一三年には始めて Civic Design の教授講座（Charles Mulford Robinson）が設けられたが專門的計畫家の養成を目的とする科目が創設せられる樣になつたのは一九三〇年九月の事で、此の時に風土建築學の課程の最初の二ケ年を完了して更に此の方面に專攻したい希望の學生に二學年に亘る選擇科が設けられた。此の選擇科には、風土設計と建設、都市設計、都市計畫と地方計畫等の技術的教育に附加して、經濟學、財政學、市政學、都市社會學、都市問題、都市衞生、都市交通等の課程が幾つかの選擇科目と共に含まれてゐる。『當然まだ此の科目を卒業した者は極く少數で聯邦・州政府及び市機關が土地計畫に熟練した士を求める、むしろ執拗なる需要は、從來、風土建築學部の科目の卒業生によつて補つてゐたのであつて、同學部は一九一三年に都市計畫、一九三三年に地方計畫の講義を加へてゐる。此の科で養成された多數の人々が今日、國中で計畫事業の樞機を握つてゐる』（前揭論文）

ロビンスン教授の死後（一九一七年十二月）都市計畫に關する諸講義は每年色々の都市計畫家を招いて續行して來たが一九二一年 Harland Bartholomew 教授が其の職についた。同年 Karl B. Lohmann 教授も同學部に參加し、爾來、地方計畫、都市計畫、都市設計に關する講義は是等の人々の共同指導の下にあつた。

一九三〇年 Robert B. Mitchell が同學部に加はり、又同年ニューヨークの Henry Wright（ラッドバアンの設計者）が風土建築學に於ける職員（スタッフ）に關する「講師（レクチュアラー）」として任命された。Mitchell 氏の組織指導の下に學部關係者と少數の上級學生との有志的非公的な小團體が形成されて廣い意味の計畫化（プランニング）を研究する事となつた。之れを都市問題討論會（Urbanism Discussion Group）と稱する。此の團體は最初は十二名位で主な工學的社會科學的領域はそれぞれ代表されてゐたが、直ちに約三十名の積極的な會員を持つ團體に成長し、月次例會には大抵、十五名乃至二十名の參加者のあるを常とした。

此の團體の會員は主として都市社會の問題に關心を持つ者から成り、社會學、政治學、經濟學、農業經濟學、史學者、心理學者、土木工學者、電氣學者、建築學者、風土建築學者、都市計畫家、法律學者等の專門學者を含み、不定期訪問者によつて代表される他の學問領域には地理學、地質學、植物學、昆虫學、動物學、醫學及び哲學等がある。

集會の方法は、毎月第三月曜日に大學倶樂部の一室に夕飯の會食をし、一定のプログラムの下に開會される。企畫委員は豫め討議の内容を定め、通例は誰か一人、或る時には專門同攻の三人によつて問題が提起される。此の問題の提起は、往々正式の文書の形式をとる事もあるが、これに續いて公開の自由討論會が開かれる。此の公開討議の形式による集會方法は特に專門家の衆圍氣、あらゆる方面からの批判的建設的な意見の交換等の内に一定命題の有意義な發展にとつて非常に有効であつたので、速記に長じた上級學生を頼んで是等討論の各種の即席意見を言葉通り記錄する事となつた。是等の記錄が後に回覽し編輯される。斯くして此の團體は其の活動について可なり完全な記錄を集成保存してゐる。學部關係者によつて提出された題目を見ると次の樣なものがある。「專門計畫家の見た都市・地方計畫」「技術者の見た都市」「吾が現大都市は經濟上から是認し得るや」「都市・地方計畫の基本たるべき社會學的因子」「工場立地」「都市牛乳供給問題」「シカゴ對ダウンステイト」「イリノイ州内の土地制度の形態」「州人口の分布と構成」「都市經濟に於ける未考察の因子」「地方政府の聯邦行政理論」「住宅問題」「將來の都市社會の建築」「州計畫の一綱領」「都市社會の心理學的因子」「英文學に於ける都市社會の影響」「農村文化と都市文化との均衡計畫」等であつて、いづれも當面の問題圈内のものである。此の外來賓講師（ガストレクチュアラア）としては大學教授、都市計畫家、建築家、技師、關係諸團體の理事者、政府機關の關係者等多くを算ふ事が出來る。

五

他方一九二〇年頃イリノイ州計畫の案が同商業會議所で既に論ぜられてゐた。併し一九三〇年同會議所内に市勢發展委員會が組織され、顧問技師として Jacob L. Crane, Jr. の指導の下に基本調査が行はれる事になつた。所が Crane 氏は、是等の點についてはイリノイ大學の調査、實驗室、調査機關等が調査報告に對して實質的貢獻の出來る事を知り、一九三一年匆々刊行された報告書に有用な材料の情報を求めに來た。同時に同氏は大學内に State Planning Survey を建設し既存の州調査と協力すべき旨を說いた。彼は大學には充分なる背景があり更に、政治學、經濟學、社會學、工學、風土建築學、建築學等の各部門の教育及び調査機關を持つてゐるが故に、州首府に設く可き

よりも大學内に置いて然かる可き調査機關は宜しく大學内に置く可きであるとし、更に大學内に調査所を設ける事は、學生や是等の方向に沿ふ教育に關係する便益に對して多大の刺戟たり得可きものであると力説した。殊に一つの大都市地域を持つたイリノイ州は非常に困難な社會・經濟・政治・住宅及び其の他の物的狀態と、生活の全階層に及ぶ農場人口、殊に又典型的な中西部の物的社會的環境を持つてゐるが故に斯かる調査機關を興すには理想的な土地であつた。

此の交渉は前記 Crane 氏と新らたに設立せらるゝ豫定であつた純粹及應用美術大學(College of Fine and Applied Arts) の執行委員會議長であつた Rexford Newcomb 教授との間に進められたが、同氏が此の新設大學の學長となつた時(從來の風土建築學部は此の大學の内に編入された)總長 H. W. Chase氏 に提案したが、その時は丁度機會でなかつたものゝ如くであつた。

Newcomb 學長が一九三一—三二年の學期に當時カリフォルニア大學の Carol Aronovici 博士を招聘したが同博士は「都市社會と地方主義」(Urbanism and Regionalism)に關する一週間に亘る協議會を主宰した。一週間の會の内容は講演や討論で、題目は「聚落社會計畫の範圍と限界」「都市社會とその社會學的意義」「聚落社會設計と科學」「數量的資質的地域制」「文學と聚落社會計畫」「聚落社會計畫に於ける價値と無駄」等であつた。

此の協議會には學部關係者及び學生が參加したが「計畫化」に對する關心の鼓吹に多大の貢献を爲した。同會に於いて提案された諸企圖の中に「都市學校」(School of Urbanism)の設置の件があり Aronovici 博士によつて要綱試案が作成された。然かるに斯くの如き研究を進める内に、現在の大學々部の多くが活用されゝば、職員なり組織なりに高價な擴張の必要が無からうと云ふ事が理解された。殊に社會科學的方面の教程、例へば土地經濟學、都市發展史、產業分布、賃銀及び生計費等の科目は現在の學部の關係を整調すれば容易に行ふ事が出來た。一九三二—三三年の學期には前掲の Bartholomew, Henry Wright 兩教授が講義を續け、併せて住宅問題に關する全般の資料を豐富に紹介した。同三三年六月イリノイ州計畫委員會設立の議が行はれた。

一九三三年秋、純粹及び應用美術大學は「イリノイ州新計畫機會」に關する一日の協議會開催を提案し之れが翌年一月十日、百名を越ゆる市長、計畫吏員、其の他を集めて大學に催された。Newcomb 學長は開會の挨拶に、計畫化に對する廣汎なる基礎と理想とに關說し、前記 Crane 氏は 都市・地方・州計畫と聯邦政府の政策」と題して、當時の「國土計畫局」(National Planning Board)現在の「國家資源委員會」(National Resources Committee)の活動に言及し、之れは全國的規模に基いて各地方の計畫に援助するもので全國に跨つて是等の計畫を整調し、住宅問題、經營問題、租稅滯納問題等に關し包括的な調査を行ふものである事を說明し、更に產業分布、交通、農業、外國貿易、植林等の事業、ミシッピー谿谷委員會の如き企畫等が聯邦政府の政策領域のものであるとして注意を喚起した。H. Bartholomew 教授は「効果的なる計畫管理」に就いて、より大なる法律上の權威を持ちより充分なる情報を具へた管理者の必要を說き、アルトン市長 Thomas Butler 氏は「計畫化に對する公共的支持」K. B. Lohmann 教授は「イリノイ州の都市計畫現狀」William E. O'Brien 氏(ウヰスコンシン州ハイウエー・コムミッション理事) は同州

の Kenosha の顯著なる發展を材料に「如何に一都市が其の都市設計を利用したるか」に就いて講演した。

此の協議會の內で最も傑出した講演者の一人は Robert E. Kingery（州土木事業部長・イリノイ州計畫委員會議長）で所謂、計畫化綱領十則なるものを說いた。其の要領を摘記すると（一）州全土に亘る土地々域制設計の用意（二）之れに關聯して現在農業上の趨勢の調査（三）州立公園敷地、記念地域の調査研究と保養厚生の積極的設計の前進（四）州有森林、魚獸生棲地保留の敷地の調査と資源保存に關する將來の政策樹立（五）水力電氣事業の爲めの河川調査（六）現在河川衞生局・社會衞生省の下にある河川衞生の徹底化（七）第二、第三級道路の分析（八）陸海軍用保留地の調査、殊に其の最善利用法の研究（九）公共福祉施設の將來必要に對する共同計畫（十）合衆國及び地質學調査によつて完成されてゐない地方の地圖作成等である。

同年一月、更に州計畫委員會側から彼等の企圖する諸問題に關し大學の援助要請があり Daniels 總長は Newcomb 學長に其の交涉取極めを委任し、其の結果、農業、社會學、政治學、風土建築學の部門、並びに技術的方面に於いて幾つかの顧問、助言、監督の仕事が大學に要請される事となつた。總長は此の取極めに贊意を表し、必要な經費を支出する事となつた。

一方大學校內では州計畫委員會代表者達は大學に置かれた State Natural History Survey 及び State Geological Survey によつて實行さる可き二計畫を樹てたが、是等の代表者達は常に非公式に都市問題討議會と接觸を保つてゐたし、計畫委員會と協力する人々の內數名が此の討議會の會員でもあつたから、此の團體は殊に重要な意義を增すに到つた。かくして計畫委員會と大學との協働は同年の夏から冬にかけて擴大し遂に委員會の豫備報告が作成され、三四年十二月に公にされた。

大學と委員會との最初の經驗が功を奏したので、委員會側から此の關係の永續を提案して來て以來、更に一層判きりした了解を持つ事の利益が認められ一九三四年四月前記の Kingery 氏は Daniels 總長に此の種の取極めの提案を致したが、同文中に、同大學の研究調査機關は計畫化に必要なる情報資料を提供し得る地位に在る事を認め、州大學は州計畫の學術・技術的方面を代表するものであるとして大學內にも適當の機關があつて其の協力を確保す可き旨を述べた。Daniels 氏に代つた同大學總長 A. C. Willard 博士は之れを諒として、總長事務局がその任に當る事とし、委員會側よりの要請を考究し之れを適當なる學部に照會するの勞を取ると共に、其の間、かゝる交涉上の重複の厭なき事を保する旨を答へた。

斯くの如くして、州計畫化の當局と州大學と協力の體制は完成したのであるが、之れと前後して多くの計畫事業に關する學術的協力が同大學に於いて行はれてゐる。例へば一九三四年二月の Mississippi Valley Committee 或ひは Big Muddy River 流域事業を擔當せる Illinois Emergency Relief Commission（一九三五年二月報告書作成）更に一九三五年三月 Kaskaskia River Valley 研究等が主なものであつて、何れも學術總動員の効果を優秀に示してゐる。Kaskaskia River Valley 研究に就いては別の論文が詳細な報告をしてゐるが（前揭雜誌、第二論文 W. Russel Tylor: Cooperative Research in Territorial Planning. The Kaskaskia River Valley Study in Illinois）

其の爲めに大學内に設けられた委員會が到達した結論に就いて、大學總長が一九三五年四月二十六日附の Colonel Kellogg に與へた書翰に要約された所を見ると(一)大學は他の委託、義務並びに豫算削減等による制限が邪魔しない限り出來る丈け盡力する、(二)報告書に盛らるゝが如き資料の多くは大學に於いてのみ利用される丈けのものであるから大學及び調査所は提案された問題に應じて報告書の形式で之れを發表する、從つて直接他の機關に供給する事をしない。併せてかゝる資料は州の全民に利用せらるゝを希望する。既に發表せられたものが頗る多いが、「此の説明は特に農事試驗所（Agricultural Experiment Station）の土壤調査並びに其の他の仕事、或ひは技術實驗所（Engineering Experiment Station）の水力研究其の他州調査所の出版物、研究等に關説するものである」。(三)かゝる報告書作成にあたつて大學の仕事が實際の風土建築家、技師其の他の人々の仕事と競爭にならざる樣心掛ける事(四)是等報告書作成の負擔を受ける個々の人々は既に正規の大學内の割當てに於いて充分時間を持つてゐるので、附加的な仕事は加重たるを免れない。此の理由によつて報告書作成への參加は全く自發的である。Big Muddy Valley 報告書に報告を提出した人々の大部分が今回の Kaskaskia Valley の問題に對しても報告提出の好意を求められたのであるが、いづれも喜んで之れに應じた。」

此の外、同大學の計畫化運動に關する重要な發展としては一九三四年五月に同大學評議員會が純粹及び應用美術大學の Rexford Newcomb 學長の指導の下に「聚落社會計畫課」（Bureau of Community Planning）を創設せしめた件である。同課は莫大の豫算を與へられたものでは無いが聚落社會計畫の各方面を統合し、關係諸分野に於ける協同的調査を奬勵し、更に協議會又は研究發表等により公衆並びに諸聚落團體に教育的効果を擧げる事を目標としてゐた。故に此の Bureau は行政的單位でも無ければ專門の都市聚落計畫家と競ふものでも無く、其の任務は全く助言的である。同課から一九三五年夏に第一號の會報が A Community-Planning Primer for Illinois の表題の下に K. B. Lohmann 教授の手で發行された。

六

斯くの如きがイリノイ大學を中心として見た計畫化運動の隆興に伴つた學術的反應の趨勢である。茲に國土（都市・地方）計畫の如き、主として技術的乃至は建築・土木學的な問題から社會科學への積極的接近を窺ふ事が出來る。從來地方計畫的な報告や研究も決して少くは無かつた。「併し全體として見ると地方研究及び計畫の報告書は主として地方の物理的・構成的・技術的要求に關するものであつて、洪水統制、植林、自然資源の回復保存、幹線道路の建設、農村・市街地利用の爲めの一層廣汎なる地域制政策の發達等を主たる目的としてゐる。一地方の物理的構造や設計の是等の諸相が悉く明らかに基本的なものであり、併せて直接に社會經濟的諸關係を持つものではあるが、今日迄のところ地方研究の大部分は恐らく物理的因子をのみ强調して來てゐて、社會・經濟的及び聚落・社會的な因子を犧牲にして了つてゐる。」（前揭論文 W. R. Tylor: Cooperative Research in Territorial Planning.）

斯くして土地計畫や土木的開發事業に社會科學の協力が要請せらるゝ所以は明らかにするを得た。他方、社會科學の研究も技術や工學的理論を前提に置いて理解される。殊に經營學の如き技術工學や勞働科學の協力を要請する

所少なからざるものがあらう。農業經營が機械・肥料・種子及び家畜の改良等に工學・化學・動植物學の協力を俟つ事も自明である。吾々が實際生活から游離して研究室又は書齊の裡に一人、抽象的な理論を專心せざる限り、吾々の取扱はざるを得ぬ對象は常に複雜な綜合的な具體的存在である。從つて、是等の對象を中心とする限り、抽象化の過程に得られた純粹理論から吾々に如何に隔離せざるを得ぬかと云ふ事が主要な問題となる。即ち一方では雜他な諸條件を悉く排除して純粹化を求めるに對して、玆では現實の複雜な諸條件を附加して來て、如何に純粹理論が、爲めに、制約せられるかを研究しなければならぬ。此の科學に於ける二つの方向は決して一方を建てゝ他方を捨てる可き性質のものでは無い。しかし從來、科學研究が專門化の一途にやゝ走り過ぎた厭ひはなかつたであらうか。

Science has progressed by virtue of the principle of specialization, but this trend had led to divergencies of such a marked nature that compartmentalism has developed to a positively vicious degree. The question is how can the whole mass be drawn together? By what means will it be possible to integrate the work of critical specialists? S.S.A. (Social Science Abstracts) in common with other great abstracting services, does this by printing the results of research in one specialty in close juxtaposition and in organic relationship with the results of other specialties. Thus there is no offense given to the sensibilities and habits of thought of the specialist and yet the evils of compartmentalism are avoided. For the specialist may now read on the border line of his subject and pick up new leads. He may delve into the literature of allied subjects and discover critical crosslights on his narrow interest. The synthetic type of mind can draw together from the broad record those elements that may integrate into a new and significant unity. Scholars of different nations and with different cultural heritages may pool the results of their individual research in a common medium of international range and scope. (American Journal of Sociology. vol. 36. 1930. Nov.)

之れは Social Science Abstracts が一九二九年事業を創めた頃、其の趣旨及び意義を述ぶるに際して、殊に「其の、より大なる職能」として强調したものである。つまり抽象化し孤立化した專攻的科學の體系が行き過ぎた傾向を示してゐるので、其の弊を救ふ一つの方法として「社會科學概要」が薦められてゐるのである。

實際、科學と其の實踐的効用との問題は今迄、幾度となく論ぜられた。冷酷な非人情的科學に法則の探究が委ねられると共に、現實の生活や問題に處する道も亦、此の科學から求められねばならなかつた。

『經濟學者や其の他初期の社會科學者の組織的團體が眞に有効な知識に對する需要に應へて、問題の解決に資する所多かつたが、混亂の程度が大であるのと彼等の研究の分野の性質が狹少で特殊化し且つ抽象的であつた爲め充分に此の需要に應ずる事が出來なかつた。社會學は人間諸關係の進化的體系に關する包括的現實的見解を確立する科學的努力として發生し來たものであるが故に、殊に今日此の種の抗議は社會學者にとつて痛切である』（C. J. Bushnell: Social Technology in Relation to Social Planning. "Social Forces" vol. 14. no. 3. 1936, March)

玆にも綜合化の必要が主張されてゐる。殊に社會學の部門にありては、此の引用文の後段にも見る樣に、特に其

の必要を痛感するものがある。他の機會に屢〻引用した事のあるソロキンは「都市・農村社會學原理」の中で、社會學を綜合科學として說明してゐる。即ち「社會學は一面的な簡單化された經濟人或ひは政治人を假定しないで、それは人間とそれら人間の關係を凡ゆるそれらの實際の複雜性のまゝに扱ふのである。社會學人(Homo-sociologicus)は一部分經濟人、政治人、宗教人、審美人(Homo-aestheticus)等々である合成の「人」(Homo)である」(京野正樹氏譯書による。「都市と農村—その人口交流」)

かゝる立場からは當然、諸科學の綜合化が要求せられる。故に近來の社會學文獻に此の綜合化の要求を見る事は決して偶然では無からう。

應用社會學又は實際社會學の名稱は、社會學史に於いて決して新しい存在では無い。米國の社會學に就いて見れば現世紀二十年代まで社會學と云へば社會問題の學問であると云ふ傾向が續いてゐた。勿論、純理的社會學の樹立を試みる學者や企圖が無いでは無かつたが、大學其の他の講義や授業が、貧困・犯罪又は惠まれざる階級の取扱方を論題としてゐたのは事實である。(F. N. House: The Development of Sociology. p. 225) 十年代に既に社會技術學又は社會工學と云ふ名稱を示してゐる。〔Social Engineering. A Record of Things done by American Industrialists employing Upwards of One and One-half Million People. By William H. Tolman, PH. D., Social Engineer. 1909. Applied Sociology (or Social Technology.) By Charles Richmond Henderson. "American Journal of Sociology." 1912, September.〕

併し此の傾向が今日再び擡頭したと見る事は決して失當ではあるまい。前揭のハウスも現在米國學界に「應用社會學」に對する顯著な探求のある事を認めてゐる。(前揭書四二七頁) 彼によると從來の社會學研究は結局教壇又は研究室以外に何等實際上役に立たぬ者を養成してゐた。『極最近、米國の社會學者達は此の情況による、彼等達の狹さ及び劣勢の所感に對して、練達な社會學者に開かれた新しい仕事の分野を發見し知らしめ樣とする、はつきりした努力によつて反撥して來てゐる。』之れが玆に云ふ「應用社會學への探求」であるが『他の言葉を以つて云へば、或る社會學者等は、彼等の科學と諸種の實際的人間必要及び問題との間の關係が今迄よりも一層明白になつたと思はれる方向に沿ふて社會學を發展せしめる挑戰を現在の情勢が作つてゐると感じて來てゐる。』疑も無く、多數の社會學者は、社會學が市民の問題、個人的行爲の問題、諸職業に於いて見らるゝ諸問題に對して重要な、窮極には實際的な關係を持つてゐる事に確信を持つ者であるが、教室に於ける社會學教程は、研究者の注意を出來得る限り有効に社會學の應用と云ふ事に向けしむる樣に、特に行はれてはゐないと云はざるを得ない。故に若し之れが事實であるならば、大學專門學校に於ける社會學の教師及び教科書の作者に對し一つの仕事が示されてゐると云ふ可きである。』(ハウス前揭書四二八頁)

斯くの如き事情の所に所謂「計畫化」運動が發生して來たのである。從つて社會學者の「實際化への探求」が此の計畫化運動に結合したのは當然である。C.C. North は Social Problems and Social Planning (1932) に於いて社會問題を社會學的態度で考察し、結局は計畫化された社會秩序の必要を說いてゐる。George Soule の A Planned

Society (1932) は計畫の樹立に對して明確なる社會目的と、社會的行動の合理的な理論との必要を論じ諸般の計畫殊に經濟計畫も一般社會哲學の視角から觀察して健全な社會理論と相關させてゐる。

今日の社會的急迫は之れに對處する社會的技術を必要とせしめ、其の解決の方向は廣汎な社會計畫に見出される。玆に社會技術學(Social Technology)は社會の組織及び進歩の性質に關する社會學的解釋に基いた社會計畫を要求するものである。(C. J. Bushnell: Social Technology in Relation to Social Planning. "Social Forces." 1936. March. vol. 14. no. 3.)

七

綜合科學體系が要求せらるゝのは單に社會學に止まらぬ。理論的研究の對象たる存在が抽象的游離化した存在で無く複雜なる條件の交錯裡に存在するものである限り、其の理論的把握は當然綜合的ならざるを得ない。此の意味に於いて政策や經營や計畫の理論は當然綜合的ならざるを得ない。馬場敬治教授は次の樣に云はれる。科學の世界に於いて、夫々の科學は中心問題を異にする事によつて一應は區別せらるゝが、其の中には何等かの程度に他種の科學の知識を包含してゐる。之れは是等諸種の科學の中心的對象が現實に於いて相關聯せる事に基づくもので、此の意味に於いて『一の科學の所謂純粹性を追求するが如きは、畢竟、一の不可能事を企つるものであり、假令、之を成し得たりと思惟さるゝ場合に於いても、そは單に外見上のものたるに過ぎないのである。斯くて、科學の世界に於いては、本來、垣はないのであつて、之れあるが如く思ふは、畢竟、科學的視野の狹さを語るものとも云へる。』（「技術の影響の多樣性に就いて」經濟學論集第九卷第九號參照）從つて『現實の科學は、ともかく何等かの程度に於いて綜合化的傾向を有せるものと云へる。而して、近時、各國學界に於いて看取せらるゝ一つの傾向としては、この綜合化的傾向が次第に顯著ならんとせることである。』

經營學の如く『一定の實際的目的を達成するが爲めの法則を探求することは、經營經濟學の學問的性質を他の純粹の科學的法則を探求しようとする諸學問より區別するものである。純粹科學が知識の爲めの知識なるに反し、經營上の法則に於いては純粹の科學的法則の綜合、統一ではあるが、かゝる統一が一定の實際的目的の達成の爲めに行はれてゐるのであつて、單純なる事實の因果關係の體系的組織とは異つてゐるのである。』（小高泰雄教授「經營經濟學講義」上卷）故に、經營に於いても、計畫に於いても實際的目的を含む理論の體系に於いては當然『結論は單一の科學のみからは來ない。當面の對象に、あらゆる科學からの光線を集中せしめて得られた見透のみが有効な結果を與へる事となる。』(Eugenio Rignano: Essays in Scientific Synthesis. 1918. Quoted by W. F. Dummer, in "The Philosophy Back of the Five-Year Plan." American Journal of Sociology. vol. xxxviii, no. 4. 1933, Jan.)

社會技術學は一般社會學によつて供給された社會集團化及び關心の分析から出發し、科學のあらゆる分野に於ける知識が進むと共に一歩一歩修正を受ける。故に賢明な人はあらゆる關心や結果から其の一つ一つを抽出して徹底的な檢討に附する事が出來るかも知れないが、併し彼が意識的に自己の生活設計に於いて何れでも一つを省いたとしたらば、彼はそれ丈け不健全なものたらざるを得ない。玆に社會的福祉を論ずる一團の人々があるとする。彼等

は一緒に生活して行かねばならぬから、一つの政策に就いて一致せねばならぬ事を知つてゐる。從つて約束されて目的を實現する實際的な方法を見出さねばならぬ。廣くて明晳な考想と充分なる知識とを以つてすれば確かに彼等の政策は一層好適なるものたるであらう。應用社會學が彼等を援けると云ふのは此の所の事である。」吾々は法律家、教育家、醫師の下に赴いて各々其の專門家の力を求めねばならないが、隣人と一緒に生活して行く上には更に充分な「世界觀」を持たねばならぬ。それには、賢明なる判斷が必要であるが、之れは全分野を通觀しての後に可能であつて、かゝる通觀は一個人一人の手で出來るものではなく、よく綜合された合理的勞働の所產である。故に如何なる科學の形式も結局は應用社會學に歸著するのであつて、是等のものが充分に合理的だと云ふ時は、彼等が充分に協力した時にのみである。斯くの如くして應用社會學は人間生活の目的が最も良く實現せらるゝ樣な條件を含むだ複合體は如何なるものであるかを理解して明晳な體系におかねばならぬ。(C. R. Henderson: Applied Sociology or Social Technology)

玆で吾々は複合體(Complex)の觀念に到達したが、既に問題が綜合化と云ふ點にあるとすれば、此の領域に於ける中心の問題は「關係」(relationship)と云ふ現象でなければならぬ。前揭の Bushnell は Social Technology の任務として「一社會計畫の裡に供與を受けねばならぬ人間活動の基本的本質典型、是等諸典型の相互關係、是等が發展せしめらる可き場合の相對的割合」等を研究すべきであるとしてゐるが第一の點は兎に角として、最も重要視せらる可きは、第二、第三の項目、つまり「關係」現象である。

玆で吾々は社會學的觀念として均衡觀念及び複合體觀念に到達するのである。「關係」とはつまり「均衡」でなければならない。ブシュネルは計畫觀念上の一名辭として「座標」(frame of reference)なる言葉を引用してゐる。或るものゝ「意味」はそれを活動させておく背景(setting)によつて其れに與へられる。つまり關係のある基本的な機能の體系、背景又は pattern つまり一聚落社會(コムミユニテイー)の Gestalt 之れを敍述する事が社會技術學の任務なのであつて、『かゝる敍述は、進步と社會福祉を意味する統合と協力の諸調とを生ぜしむる爲めに、是等の機能的諸要素が發展せしめられねばならぬ釣合、方向等を顯示する樣な形式のものでなければならぬ。』斯くの如き「座標」とは、社會學的に解釋して云へば、有機的社會結合の基本的條件の觀念に外ならゝ。(Bushnell: Social Technology)要するに社會は一つの複合體(Complex)であり、(Hornell Hart: The Culture-Complex Concept as a Research Tool. "Social Forces" vol. 18. no. 1. 1939 Oct.)其處に一つの均衡(Balance)關係がある。計畫理論は此の點に注目する事を忘れてはならぬ。

計畫、又は國土計畫が計畫體系としては如何に綜合的科學の大成に俟たねばたらぬかの理は一應了解せられたであらう。之れ國土計畫を强調する國々に於いて科學及び技術の總動員が主張せらるゝ所以である。